

1 学校教育目標								
教育目標		1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。 2 自ら思考し、判断し、責任ある行動のとれる主体的能力、態度を養う。 3 人間尊重の精神を育み、感謝の心や社会に貢献する態度を育む。 4 強い使命感と倫理観をもち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。			 校訓 ひとづくり＆ものづくり 100年へ向けて			
育てたい生徒像		社会人として自発的・自律的に行動できる。 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術を身に付けている。 2 基本的な生活習慣及び規範意識やマナーを身に付けている。 3 協調性、忍耐力やコミュニケーション能力を身に付けている。 4 自己の能力向上のために努力する姿勢を身に付けている。						
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)								
○生徒による授業評価は「よく分かる」(68.4%)、「分かる」(31.6%)であった。社会人基礎力を育成するため、「分かる授業」を目指した授業改善に今年度も引き続き取り組み、質の高い授業を維持する。また、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業ができるよう努める。 ○資格取得は、向上(一人あたり1.3／年間)していることから、生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな指導を今年度も引き続き行い、「一人あたり年間一つ以上の資格取得」を維持する。 ○1、2学年から計画的に進路学習、進路情報提供、キャリア教育等を行い、自らの進路に対する意識の向上を図るとともに、希望進路の実現に向けて自ら行動できる生徒の育成に取り組む。 ○コミュニティースクールの活用を通して、保護者や地域との連携を強化するとともに、定時制教育活動のより一層の周知を図るため、本校ホームページや各種メディア等を活用し、積極的に情報発信を行う。								
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題								
1 凡事徹底 2 規律ある安心安全な学校づくりと危機管理 3 新たな百年の礎づくりに向けた行動を起こす								
(1)【学習指導】 ・基礎学力の定着 ・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究と授業改善 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践 ・ものづくり人材に必要な学力や技術・技能の定着 (2)【生徒指導等】 ・規範意識や他者を思いやる心の醸成及びいじめ等の未然防止 ・心身の健康管理と体力の増進及び交通事故防止 ・組織的・計画的な進路指導及び進路多様化への対応 ・部活動や特別活動の充実 (3)【校務運営等】 ・情報共有の徹底及び根本的、多面的、中長期的視点に立った業務の改善・計画・実行 ・互いを尊重し助け合い、質問や助言が気軽にできる職場環境づくり ・コミュニティースクールの活用と円滑な運営 ・地域、企業、異校種等との積極的な連携及び情報発信					◎本年度のチャレンジ目標 生徒一人あたり 年間一つ以上の資格取得 全校生徒で 年間99%以上の出席率			
4 自己評価								
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析		学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
学習指導	生徒一人ひとりが理解しやすい授業づくりに努める。	・年2回の授業評価を実施し、評価結果の分析に基づいて授業改善に取り組む。	授業の内容が「よく分かる」、「分かる」が合わせて 4: 95%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%未満	4	●前期、後期とも授業内容について95%以上が「よく分かる」、「分かる」の評価で良好である。 ●体育・実習については前・後期とも100%の評価であった。 ●座学において、一学年の授業評価の中で、前期に「よく分からない」という評価をした生徒がいたが、後期ではいなくなった。各教員の授業改善、努力の成果と考えられる。		◆中学校での学びの機会が十分でない生徒が多いと思われるが、実態に合わせて柔軟な対応をお願いしたい。 ◆卒業生の中には3か年皆勤の生徒もいると聞く。大変素晴らしい。 ◆中学校卒業後の姿をバイト先などで見かけると、とても生き生きとしているので、安心した。 ◆資格取得は、自分の頑張った成果として目で見えるものなので、どんどんチャレンジしてほしい。	3
		・一人あたり年4回の授業公開を実施し、相互に参観することにより授業改善に取り組む。	授業公開実施回数の累計が 4: 65回以上 3: 55～64回 2: 45～54回 1: 45回未満	4	●授業公開は各教員累計100回以上行っている。 ●授業公開は、5月と11月、12月に計7日間実施。 ●5月の授業公開では保護者が各学年とも来校した。 ●11月、12月の授業公開では、中学生、保護者並びに中学校教員が10人近く見学に来校。見学者のアンケート用紙には「大変参考になった」という感想が多かった。			
		・生徒の学習理解を深めるため、授業時間の十分な確保を図る。	1単位あたりの授業時間が、半数の科目において 4: 35時間以上 3: 30～34時間 2: 25～29時間 1: 24時間未満	3	●どの科目(3単位、2単位、1単位科目)においても半数以上が、1単位あたり35時間未満であり、時間数が少なめである。 ●行事等で授業が削られる場合もあり、適正な行事日程、授業確保を検討していく必要がある。			
		・デュアル実践の充実を図り、勤労観・職業観の育成に取り組む。	勤労観・職業観の育成に役立ったと答えた生徒が 4: 85%以上 3: 65%～85%未満 2: 45%～65%未満 1: 45%未満	2	●6月と11月に各事業所で計13日間の就労体験を行っている。対象生徒は一学年の3修制生徒(今年度は2名)。 ●2名のうち一人はきちんと研修を受け、自分探し・職業選択の参考になったという報告があった。 ●もう一人は体調不良で後期(11月)の研修を実施できなかった。来年改めて実施するが、3修制選択生徒が少ないこともあり、きちんと指導していきたい。			
	学習習慣の確立と基礎・基本の習得および定着を図る。	・学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。	出席率が 4: 98%以上 3: 93%～98%未満 2: 88%～93%未満 1: 88%未満	4	●出席率は4月から1月までの平均で98%を超えている。 ●各学年に皆勤や精勤の生徒がおり、学校全体で休まず学校に来るという校風が確立している。 ●休んだ生徒もずる休みでなく、ほとんどが体調不良での欠席なので、体調管理を中心に指導を強化している。			
		・総合的な学習の時間や特別活動を充実させ、生徒が興味を持って取り組める内容を構築する。	4: 内容が充実し、生徒が意欲的に取り組んだ。出席率95%以上。 3: 内容が整い、生徒が真面目に取り組んだ。出席率85%以上。 2: 内容は整ったが、生徒は積極的に取り組まなかった。出席率75%以上。 1: 内容が整はず、生徒の取組みも良くなかった。出席率65%以上。	4	●総合学習や特別活動の年間計画を教員全体でしっかり検討して実施している。 ●各種ビデオ(生活体験、職種紹介等)、ガラス体験、キャリアセミナー、ボランティア活動等生徒が興味を持って取り組める内容になっており、生徒は興味・関心を持って各行事に積極的に参加していた。 ●来年度から「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変わるので、十分検討することとしている。			
		・授業の理解を発展させるために生徒の資格取得を積極的に支援する。	資格取得の件数が、1人あたり年間で 4: 2件以上 3: 2件未満 2: 1件未満 1: 0.5件未満	3	●資格取得の生徒目標は1件/年ということで、各資格にチャレンジさせている。今年度は資格取得延べ数が29件となり昨年度を上回った。1人あたり1.5件である。 ●ほとんどの生徒が何らかの資格を取得しており、久しぶりに危険物乙4類資格取得者出た。今後継続するよう指導していきたい。			
生徒指導	基本的な生活習慣の育成を図る。	・頭髮、服装指導を徹底する。	頭髮、服装指導の再指導を要する生徒が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 30%未満 1: 30%以上	2	●再指導を必要とした生徒は25%程であったが、多くは頭髮や爪の長さで指導を受けており、染髪や制服の改造等はほとんどなかった。 ●指導を受けた生徒は全員が適切に対応した。			
		・時間厳守の意識をもたせる。	授業開始時刻を守れなかった生徒が年間で概ね 4: いなかった。 3: 数名いた。 2: 半数程度いた。 1: 多くいた。	3	●授業の中抜けや早退はほとんどなかったが、若干遅刻する生徒が見られた。保護者と連携を取りながら、時間厳守の意識を醸成したい。			
		・教室等の美化や備品等の整理整頓を意識させる。	教室等の整理整頓ができた日が年間で概ね 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	4	●ゴミの始末や教材等の管理について、学級担任を中心に指導した。 ●プリント等の管理が不十分な生徒が若干見られたので、根気強く指導を継続するとともに、管理の在り方について必要な支援を検討したい。			

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
(生徒指導)	育てたい生徒像を意識した指導を行う。	・生徒指導部会を年10回以上行い、生徒情報や生徒指導に関する最新の知見を共有する。	4: 部会を10回以上実施し、生徒情報及び最新の知見を共有することができた。 3: 部会を10回程度実施し、生徒情報を共有することができた。 2: 部会実施は10回に満たなかったが、生徒情報を共有することができた。 1: 実施できなかった。	4	●定例の生徒指導部会を、1月から教員全員が参加して行う「生徒指導連絡会」に改めた。全員が参加することでよりきめ細かく情報を共有できるようになった。 ●連絡会では、研修等の復伝も併せて行い、最新の知見を共有するよう努めることができた。	◆遅刻、欠席(欠勤)が許されないこと、整理整頓の習慣が大切なことなど、社会人として必要なスキルをしっかりと学ばせておいてほしい。	3
		・登校時の見守り指導の充実化を図り、生徒一人ひとりの変化に気を配り、問題行動の早期発見、未然防止に努める。	登校時の見守り指導の頻度は生徒出校日数の 4: 95%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%未満	4	●全教員が登校時の見守りに参加し、ほぼ毎日指導を行うことができた。登校直後の生徒の様子が観察でき、指導に生かす場面が増えていると考える。今後も引き続き継続していきたい。	◆高校入学後は中学校時に比べて交通事故が増えるので、入学時に交通安全教育をしっかりと行ってほしい。	
	交通安全の意識向上を図る。	・自転車、原付自転車での通学生徒に対し、安全点検の実施、正しい乗り方の指導をする。	4: 通学生徒の100%が安全点検を受け、サマースクールに参加し、交通事故は発生しなかった。 3: 通学生徒の100%が安全点検を受け、サマースクールに参加した。 2: 通学生徒の70%以上が安全点検を受け、サマースクールに参加した。 1: 安全点検を受け、サマースクールに参加した生徒は70%に満たなかった。	4	●自転車及び原付通学者全員が安全点検を受けた。サマースクールにも全生徒が参加し、運転技術の向上を目指して努力した。 ●今年度は交通事故は報告されておらず、二人乗りや傘さし運転などの目立った違反もみられなかった。		
進路指導	生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択ができるよう取り組む。	・LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。	全学年の生徒において進路希望「未定」が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 40%未満 1: 40%以上	2	●1月実施の希望調査では、提出遅れや見通しの甘さなど全体としての進路意識のレベルは近年に比べ後退している。 ●一斉指導のますますの充実に加え、平素の授業や日常生活等の様々な場面で、個別の進路情報提供・進路相談の機会を増やし、意識の低い生徒には刺激を与えていく必要がある。	◆中学校で進路や将来に対する目標を見出せずに過ごした生徒が多い。じっくりと進路に対する意識を醸成するよう努めてほしい。	3
		・卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路の獲得ができるよう支援する。 (進路相談の充実、応募前職場見学・オープンキャンパス等への参加の奨励、筆記試験対策・応募書類作成支援・面接指導の充実、不合格生徒等への「あきらめさせない」支援の継続)	卒業学年生徒において 4: 全員の進路が12月末までに決定 3: 全員の進路が2月末までに決定 2: 全員の進路が3月末までに決定 1: 3月末までに進路先を決定できない者がいた	4	●就職については、求人の多さにも支えられ、順調に内定をもらうことができた。 ●進路研究から就職試験対策まで全教員が連携して指導し、生徒達もそれによく応えた。 ●来年度は卒業生が8名(今年度は3名)と多くなり、進路意識が低い生徒や社会性が未熟な生徒がいるなど個性も多様化する。保護者とも連携しながら、より一層個別的に支援していく必要がある。		
特別活動	学校行事や生徒会活動を通して活力ある学校づくりに取り組む。	・小工祭、定通体育大会、生活体験発表会、クラスマッチ、クリーン作戦、新入生歓迎会、卒業予餞会などの活動を通して、生徒の自主性を育成する。	4: 98%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3: 88%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2: 78%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1: 参加した生徒は78%に満たず、取組は停滞していた。	4	●参加率は99.4%。生活体験発表を体調不良で1人欠席。 ●小工祭では、ホットケーキの調理・販売や手作りゲームと景品の提供などを通して、活発に来場者をもてなした。赤い羽根共同募金のボランティア活動を行った。 ●体育大会では、学校対抗リレーで惜しくも第2位だった。 ●生活体験発表県大会では、7位入賞を果たした。 ●クラスマッチは、教員も参加し盛り上がった。 ●クリーン作戦、新入生歓迎行事(ウォークラリー、会食)においても、多くの生徒が積極的・協力的であり、生徒会役員を中心に円滑な運営が図られた。	◆様々な地域貢献をしていたので、毎年頼りにしている。有り難い。	4
	よりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てる。	・校内あるいは、地域のボランティア活動や体育的・文化的行事へ積極的に参加する。	地域のボランティア活動や体育的・文化的行事に参加した回数が年間で 4: 5回以上 3: 4回 2: 3回 1: 2回	4	5月: 地元の住吉まつりに参加(神輿かつぎ)。 6月: 「小さな親切運動」きららビーチ焼野海岸清掃。 8月: 課題研究製作のイカダレースに参加(デザイン4位)。老人ホーム清掃ボランティアを全員で実施。 10月: クリーン作戦(通常コース)を全員で実施。 11月: 老人ホーム文化祭に調理・販売ボランティアで参加。 1月: 市駅伝に教員と共に一般の部で出場。 ※ものづくり部(ロボット競技)が全国大会へ出場し、決勝トーナメントへ進出。		
開かれた学校づくり	学校と家庭、地域社会との連携の強化に努める。	・各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌などと連携して、積極的に地域に発信する。	連携した件数(延べ数)が 4: 10社以上 3: 7社以上 2: 5社以上 1: 4社以下	3	●学校行事、総合的な学習の時間、公開授業受講生募集など、のべ7社と連携し、地域発信できた。 ●さらに積極的な広報に取り組む必要性を感じている。	◆「実践 地域理解」としての総合的な学習の時間の取組はとてもよい。	3
		・近隣中学校の授業公開参観や学校説明のための中学校訪問及び本校の授業公開の通知を行い、中高連携強化を図る。	連携した中学校数(延べ数)が 4: 40校以上 3: 30校以上 2: 20校以上 1: 19校以下	3	●中学校に出向いて行う進路説明会、本校で行う入学説明会とも例年どおり実施した。 ●公開授業参観については、問い合わせ、来校者数ともに増加した。		
		・「総合的な学習の時間」・「特別活動」等の時間を活用して、地域の伝統産業理解や工場見学等、地域と連携した学習に取り組む。	目的を理解し、内容に満足していると答えた生徒が 4: 95%以上 3: 75%～95%未満 2: 55%～75%未満 1: 55%未満	4	●「実践 地域理解」は、本校総学のメインテーマであり、伝統でもある。 ●高い満足度を維持しており、今後とも拡充・発展させたい。		
業務改善	学校の組織等		4: 業務一覧を作成し、業務の見直しを図り、全職員が業務改善を実感した。 3: 業務一覧を作成し、業務の見直しを図り、50%以上の職員が業務改善を実感した。 2: 業務一覧を作成し、業務の見直しが図れた。 1: 業務一覧を作成し、業務の見直しを検討することができた。	3	●業務改善・働き方改革の進捗については、約7割の教員が肯定的に捉えている。 ●改革期の徒労感があるため、やや否定的に捉える教員もいる。	◆本校定時制のきめ細かい指導と働き方改革を是非両立させてほしい。	3
	校務分掌の見直しと改善	・各分掌の年間業務・月業務を調査し、業務の見直しと協働体制の確立を図る。					
	日常的な業務						
	各種会議の精選と効率化	・日々の連絡会を有効に活用しながら、協議すべき事項と連絡・報告の整理をする。	4: すべての会議が1時間以内で実施された。連絡会や分掌内の連携が極めて有効に機能している。 3: すべての会議が1時間以内で実施された。連絡会や分掌内の連携が有効に機能している。 2: 90%以上が1時間以内で実施された。連絡会は機能し会議は縮減されている。 1: 80%以上が1時間以内に実施された。会議は縮減されたが、分掌内の連携があまり取れていない。	2	●簡易な内容については、日常的な会話、職員連絡会後の時間活用などにより行った。 ●協議前の関係者間の調整を行うことにより、協議時間の縮減につながっている。 ●生徒指導上の重大事案の発生に関し、やむを得ず長時間の会議となることもあった。		
	勤務状況	・業務時間記録表をもとに健康管理を呼び掛けるとともに、年休、代休の効果的・積極的な取得を促す。(特に長期休業前等)	健康管理に努め、年休取得率90%以上の教職員が 4: 9割以上 3: 7割以上 2: 5割以上 1: 3割以上	3	●通常はほぼ全員が定時に退勤。 ●年休取得は、8割以上が90%(18日)以上の取得率。		
6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
【チャレンジ目標】 ◎出席率 98%以上を維持しているものの、99%には届いていない。新学期、長期休業明け、厳冬期など、欠席が増加しやすい時期の予防的対応をきめ細かく行って参りたい。 ◎資格取得 全校生徒19人中17人が資格取得した。また、3年ぶりに乙種第4類危険物取扱者に1人が合格した。次年度に続くよう、また、全員の取得が達成できるよう指導して参りたい。 【成果(主なもの)】 ○ロボット競技大会で全国大会決勝トーナメントに進出(県内では全日制を含めて2チームのみ) ○生徒と教員が協働して取り組む活動の充実(冬のクラスマッチにおいて豚汁の共同調理、市民駅伝へ生徒・教員合同チームとして参加、など) ○3か年皆勤の生徒1人(卒業証書授与式各賞授賞式において皆勤賞を受賞) 【課題(主なもの)】 ●セルフメディケーション能力(自分で自身の健康を管理する力)の育成 ●スマホやゲームとの関わり方を自己管理する力の育成 ●教員の働き方改革の推進							
7 次年度への改善策							
【学習指導】 新学習指導要領の内容の周知を図り、本校定時制教育の良さを一層生かす観点で、教育課程編成、改訂内容に関する研究等について、具体的な取組を始める。 【生徒指導】 基本的な生活習慣(睡眠時間、食生活、健康管理、安全安心)の育成を図る。 学校行事、総探・総学を通して、生徒の自己理解を促進し、自己有用感、自己効力感を高める指導に取り組む。 【進路指導】 入学後早い段階から進路意識の向上に努め、個に対応したきめ細かい指導を積み上げる。 【特別活動】 体験型、参加型活動のさらなる充実、生徒と教員が協働して取り組む活動のさらなる充実を図る。 【地域連携・業務改善】 2年目となる学校運営協議会の仕組みを生かし、学校の総合力向上、学校運営に関する自己点検機能の強化を図る。 地元企業、近隣中学校、報道機関との連携を深め、定時制教育のさらなる周知に努める。							